

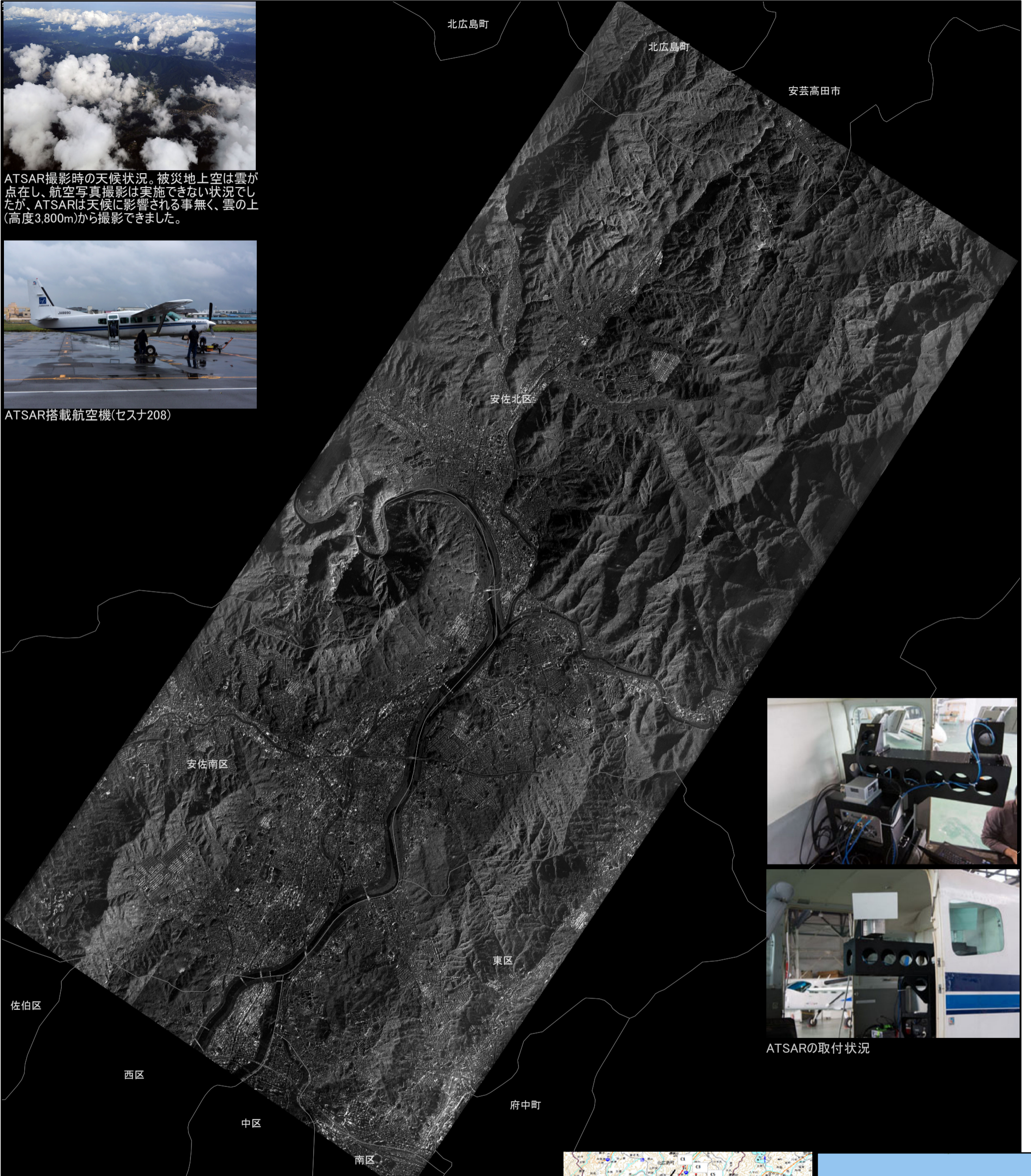
「平成26年8月豪雨」による広島土砂災害状況」 AT SAR画像 2014年8月28日撮影



ATSAR撮影時の天候状況。被災地上空は雲が点在し、航空写真撮影は実施できない状況でしたが、ATSARは天候に影響される事無く、雲の上(高度3,800m)から撮影できました。



ATSAR搭載航空機(セスナ208)



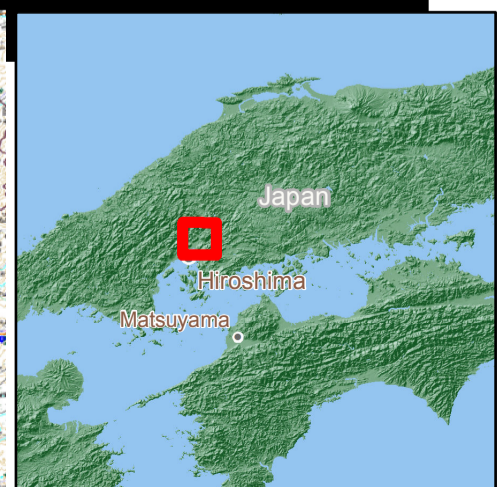
ATSARの取付状況

0 0.5 1 2 3 4 5

キロメートル

アジア航測(株)は、8月28日に全天候型センサである合成開口レーダ(SAR)による航空機からの緊急撮影を、アルウェットテクノロジー株式会社と共同で実施いたしました。発災後悪天候が続ぎ、航空写真等ではエリアを面的に把握することが難しい状態となっていますが、SARの特性を活かして面的な漏れのない撮影に成功しました。ATSAR画像は着陸後速やかに処理・転送され、航空機の着陸後、約2時間で川崎の事務所で判読作業が行われました。

中央の図は、広島の被災地を撮影したATSAR画像4コース分をモザイクした画像です。



ATSAR撮影コース図(左)、概略位置(右)